

# 新市の人口推計

## ～ 新しい市の将来人口は、10万7千人に～

第3回協議会において、新市の人口推計が示されました。

新市では、合併特例法による財政優遇措置を活用して、幹線道路網による都市基盤整備などの新しいまちづくりを進めることにより、新市の全ての地域で高速交通網の恩恵を受けられるようになります。

これにより、住民生活の利便性が向上することから、新市では今後も人口の増加傾向が続くと見込まれます。

新市が誕生する平成17年の推計人口102,210人は、20年後の平成37年には107,359人まで増加する見通しで、その後は緩やかな減少傾向に転じると予測されます。

日本の人口が減少傾向の中で、新市は、稀少な地域と言えます。

### ○日本のどこでも、同じように人口が減少するわけではありません。

県庁所在市に1時間以内の交通圏内にある都市部では、人口が増加傾向にあります。

それ以外の地域では、すでに人口減少が始まっています。

(国土交通省 国土審議会基本政策部会報告)

### ●新市の状況は、どうでしょう。



(資料: 国立社会保障・人口問題研究所(低位推計)、合併協議会)

北陸新幹線・上信越自動車道 → [交通の要衝] さらに、中部横断自動車道 → [地域連携軸の結節点]

●長野市まで ⇒ 新幹線で20分、車で1時間以内

●東京まで ⇒ 新幹線で70分、車で2時間以内

4市町村は合併することにより、人口が増加する環境が整います。

## 合併により、臼田町・望月町の人口減少が緩和します。

新市となった場合の4市町村の地域における人口推計と、合併せずに単独の状態での4市町村の人口推計を比較してみましょう。

4市町村単独では、佐久市のみが人口増加傾向でしたが、合併することにより浅科村も増加傾向へと転じます。

また、臼田町・望月町においては、人口の急激な減少に歯止めがかかり、緩やかな減少傾向にとどまります。

### ○新しい市の人口推計

(単位: 人)

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	
新市	100,016	102,210	104,224	105,877	106,788	107,359	107,336	
内訳	佐久市地域	66,875	69,543	71,936	74,108	75,713	77,043	77,889
	臼田町地域	15,962	15,690	15,350	14,972	14,503	13,981	13,382
	浅科村地域	6,504	6,583	6,676	6,741	6,770	6,805	6,814
	望月町地域	10,675	10,394	10,262	10,056	9,802	9,530	9,251

(資料: 合併協議会)

### ○合併しなかった場合の人口推計

(単位: 人)

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
4市町村計	100,016	102,063	103,416	104,194	104,166	103,765	103,172
佐久市	66,875	69,487	71,612	73,233	74,241	74,914	75,386
臼田町	15,962	15,656	15,194	14,681	14,030	13,326	12,613
浅科村	6,504	6,526	6,507	6,461	6,396	6,337	6,283
望月町	10,675	10,394	10,103	9,819	9,499	9,188	8,890

(資料: 国立社会保障・人口問題研究所)